

<p>芸術と人生</p> <p>2 時間</p> <p>度を養う。</p> <p>。 すぐれた芸術作品に接することにより、人生の豊かさや生きる喜びを感じ、さらに深く対象の生命にふれることによって美についての感じ方や考え方を一層深めることができることに気付かせる。</p>	<p>2 芸術作品の鑑賞</p> <p>(1) 絵画鑑賞</p> <p>林 武の作品「富士山」</p> <p>(2) 画家の歩みとその生き方(欠けと人生)</p> <p>(3) 鑑賞者の立場と芸術活動への参加</p> <p>(4) 人生における美と芸術の意義</p> <p style="text-align: center;">展開例 (23)</p>	<p>。 美意識の伝統について</p> <p>は、西洋における美意識の特色を例として取り上げることもできる。</p> <p>。 美を創造する芸術家の生き方は、人生をいかによりよく生きるかの追求でもあり、それがあるからこそ、その作品がみる者の心を打つことに気付けさせる。</p> <p>。 鑑賞者の限界を克服するためには、自分なりに芸術活動に参加することの大切さを教える。</p>	<p>道徳 9 「自然を愛し、美しいものに感動し、崇高なものに素直にこたえる豊かな心をもつ。」</p> <p>(自然と人間とのかかわり合いについて考え、自然や美しいものを愛する心をもつとともに、人間が有限なものであるという自覚に立って、人間の力を超えたものに対して畏敬の念をもつように努める。)</p>	<p>政経 内容 (2) 「日本の経済と国民福祉」</p> <p>。 生徒の実態を考慮して、労働条件と技術の変化、労働時間と余暇、賃金、高学歴社会における労働などの</p> <p>公民 内容 (2) 「国民生活の向上と経済」</p> <p>1 職業と生産活動</p> <p>職業が生産活動に果たす役割及び労働の権利と義務に関連させて、</p> <p>資料を十分に活用し、職業に対する関心をもたせ、具体的な展開がはかれるように工夫する。</p> <p>『職業の倫理』(尾高邦雄著 中央公論社 P73~80)</p> <p>『組織で働く青年の意識』(総理府 P26~28)</p> <p>1 職業と人生</p> <p>(1) 青年の職業意識</p> <p>(2) 職業の意味</p> <p>(3) 職業適性の認識</p> <p>(4) 職業と生きがい</p> <p>仕事に生きがいを感じる</p>
---	---	---	---	--